

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年10月

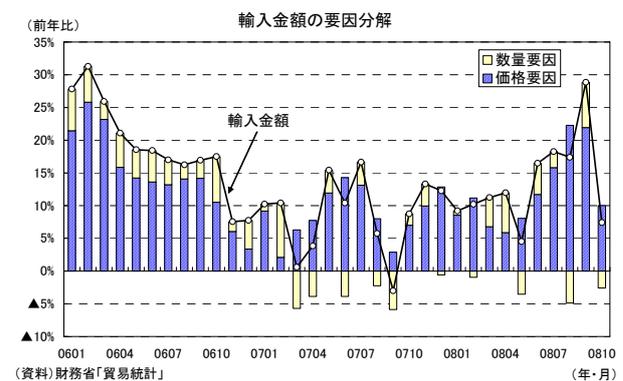
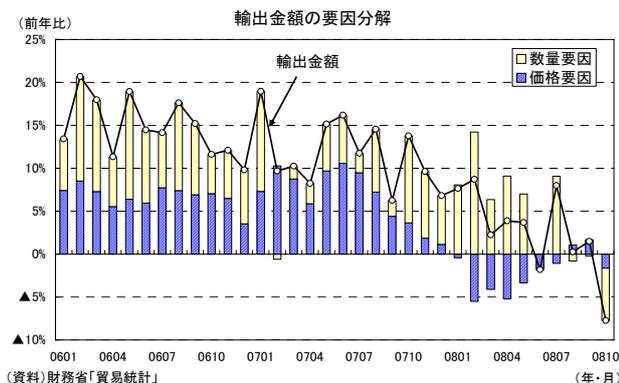
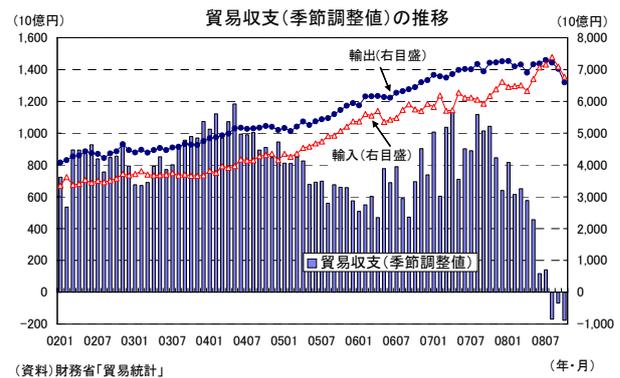
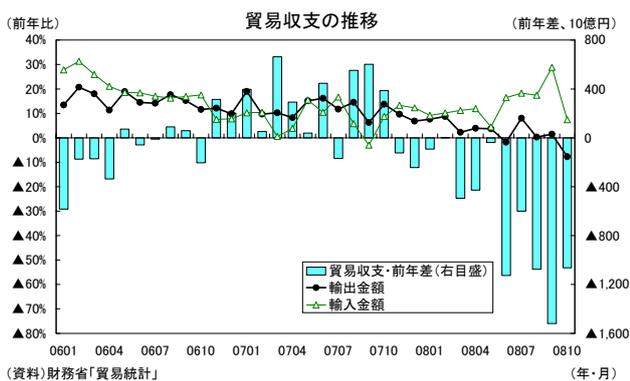
～海外経済減速の影響で輸出が大幅減少

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は3ヵ月連続の赤字

財務省が11月20日に公表した貿易統計によると、10月の貿易収支は▲639億円の赤字となり、市場予想（ロイター集計：800億円、当社予想は2,840億円）を下回った。原油価格下落に伴い輸入価格の上昇率が急低下したため、輸入の伸びは大きく鈍化したが、海外経済減速の影響で輸出が大幅に減少したことが響いて、9月の黒字から再び赤字に転落した。季節調整済の貿易収支は▲1,756億円と3ヵ月連続の赤字となった。

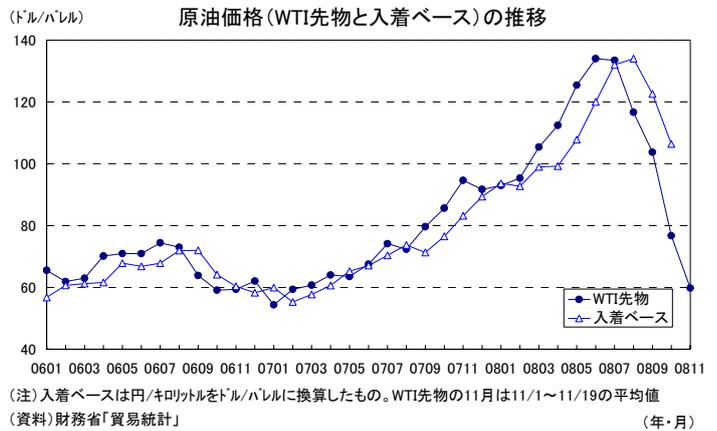


円高の進展に伴い輸出価格が前年比▲1.7%（9月：同1.7%）とマイナスに転じたことに加え、海外経済の悪化を反映し、輸出数量が前年比▲6.1%（9月：同▲0.2%）とマイナス幅を大きく拡大させたため、輸出金額は前年比▲7.7%（9月：同1.5%）の大幅減少となった。

原油価格の下落に伴い輸入価格は前年比 10.1%（9月：同 21.3%）と伸びが急速に低下し、内需低迷を反映し輸入数量が前年比▲2.4%（9月：同 6.2%）と 2 ヶ月ぶりの減少となったため、輸入金額は前年比 7.4%（9月：同 28.8%）と伸びが大きく鈍化した。

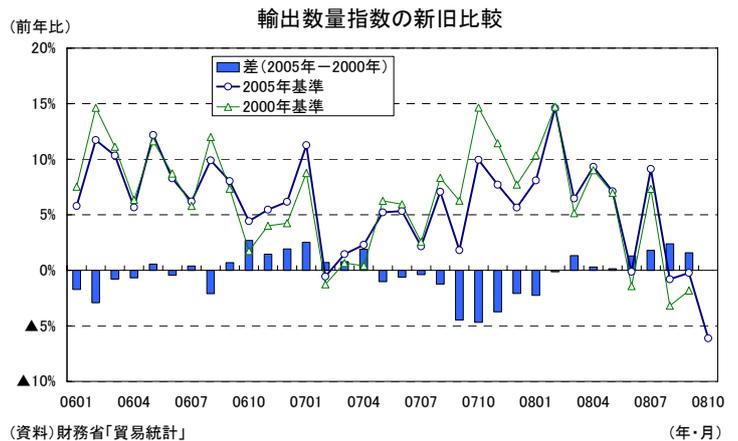
通関（入着）ベースの原油価格は 8 月の 1 バレル＝130 ドル台前半から 10 月には 100 ドル台へと大幅に低下したが、WTI 先物の価格に比べると高止まりしている。これは、通関（入着）ベースの原油価格は WTI に遅れて動く傾向があるためであるが、WTI は足もとでは 50 ドル台まで下落しているため、入着ベースの原油価格も下落が続き、輸入価格の上昇率は一段と低下することが見込まれる。

このため、現時点では貿易収支の赤字が定着するとは見ていない。ただし、輸出の減少ペースは今後加速する可能性が高いため、輸出入ともに減少する形で、貿易収支は低水準で推移することが予想される。



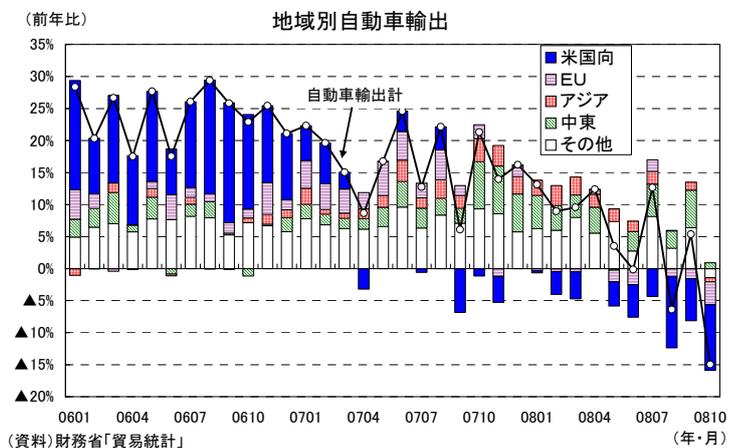
なお、貿易指数（金額指数、価格指数、数量指数）は今回（10月速報分）から基準年が 2000 年から 2005 年に変更された。

輸出数量指数の伸びを新旧指数で比較すると、07 年後半から 08 年初めにかけては伸び率が下方改定される一方、08 年 3 月以降は伸び率が上方改定された。



2. 輸出の減少ペースはさらに加速する可能性

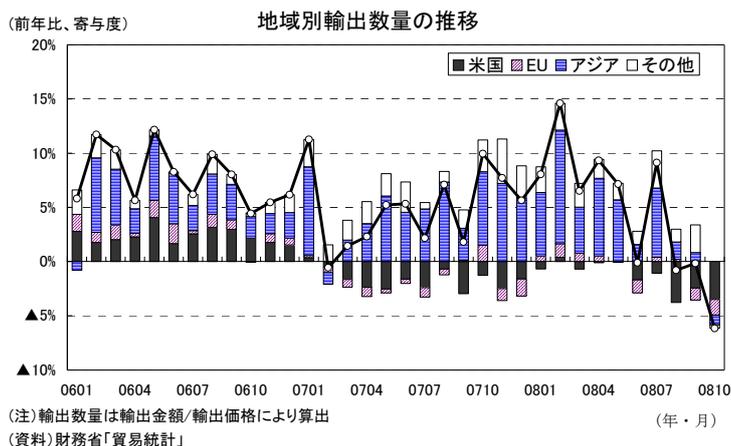
輸出の内訳では、自動車は前年比▲15.0%（9月：同 5.4%）と大幅に落ち込んだ。中東向け（9月：前年比 58.8%→10月：同 7.8%）、ロシア向け（9月：前年比 66.5%→10月：28.5%）は増加を維持したが伸び率は大きく低下し、米国向け（9月：前年比▲18.2%→10月：同▲28.3%）、EU 向け（9月：前年比▲11.1%→10月：同▲27.6%）は前年比 20%を超える大きな落ち込みとなった。また、これまで高い伸びを続けてきたアジア向けも前年比▲7.8%（9月：同 16.0%）となり、約 2 年ぶりに減少に転じた。



10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けは前年比▲16.9%（9月：同▲12.2%）、EU向けが前年比▲10.3%（9月：同▲8.0%）と減少幅がさらに拡大したうえ、アジア向けも前年比▲1.8%（9月：同1.1%）と減少に転じた。

また、当研究所で試算している主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向けの輸出の寄与度は前年比▲0.3%（9月：同2.5%）となった。これまでは、新興国を中心とした「その他地域」向けの高い伸びが、米国向けの落ち込みをカバーしてきたが、景気減速が世界的な広がりを見せる中、このような構図は崩れてしまったと考えられる。

9月中旬のリーマン・ブラザーズ破綻以降の金融危機の影響はこれから本格化することが予想され、輸出の減少ペースはさらに加速するだろう。輸出数量の落ち込み幅は、前年比で二桁のマイナスが続いたITバブル崩壊時並みになる可能性が高くなってきた。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。